

授業科目

成人言語障害学特論Ⅰ

| 【担当教員名】 渋谷 直樹 | | 対象学年 | 4 | 対象学科 | 言語 |
|--|--------------------------------|----------------------------|-----------|--------------|--------------|
| | | 開講時期 | 前期 | 必修・選択 | 選択 |
| | | 単位数 | 2 | 時間数 | 30 |
| 【<概要>又は<一般目標：G I O>】 卒業研究のための基礎的知識を習得するために、成人脳損傷者の言語・コミュニケーション障害に関する文献研究、臨床研究を実践し、近年話題になっているテーマを掘り下げて学ぶ。 | | | | | |
| 【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】 1. 神経心理学、失語症学の歴史を概観し、議論の対象とされたテーマを列挙できる。 2. 文献を検索して必要な情報を収集し、その要旨をまとめて発表できる。 3. 関心がある特定のテーマの詳細を掘り下げていくことができる。 4. 特定のテーマに関する先行研究をまとめて、今後の課題を発見することができる。 5. 卒業研究のテーマに沿って議論を展開し考察できる。 | | | | | |
| 回数 | 授業計画又は学習の主題 | SBO 番号 | 学習方法・学習課題 | | |
| 1～3 | 神経心理学、失語症学の歴史に関するテキストを抄読する。 | | 1 | 演習、個別学習 | |
| 4～6 | 神経心理学、失語症学で話題とされたテーマについて発表する。 | | 2 | 演習、個別学習 | |
| 7～9 | 興味あるテーマについて情報を収集する。 | | 3 | 演習、個別学習 | |
| 10～12 | 特定のテーマについて今後の課題を発見し、研究計画を立案する。 | | 4 | 演習、個別学習、臨床研究 | |
| 13～15 | 卒業研究の完成に向けて、これまで得られた知識を応用する。 | | 5 | 演習、個別学習、臨床研究 | |
| 【使用図書】 | | <書名> | <著者名> | <発行所> | <発行年・価格・その他> |
| 教科書 | | | | | |
| 参考書 | | 適宜紹介する | | | |
| その他の資料 | | 適宜紹介する。 | | | |
| 【評価方法】 レポート、発表内容について評価する。 | | 【履修上の留意点】 自主的学習態度を期待する。 | | | |